

57 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(28) —産業遺産(3) 旭硝子株(現 AGC株) 跡—

29 期 仲田 元昭

今回は、JR 船橋駅より徒歩 15 分程日本建鐵株の隣にあった日本で最初に TV 用ブラウン管用ガラスバルブを工業生産した、旭硝子株(現 AGC株) 船橋工場跡をご案内します。

1、ブラウン管用ガラス生産発祥の地

旭硝子株船橋工場の創業は昭和 29 年(1954)で、昭和 31 年(1956)にテレビ用ブラウン管用ガラスバルブを国内で最初に本格量産を開始しました。

船橋市は「ブラウン管用ガラスバルブ工業化生産発祥の地」です。

創業時の生産量は年間 140 万本で当初は国内生産の 100%を生産していました。

高度成長の昭和 62 年(1987)

でも国内生産の 50%程を生産する大供給基地として TV の普及に貢献した工場でした。



「元旭硝子株船橋工場」

2、工場閉鎖後の再開発状況

液晶 TV の普及により需要が激減したため、事業より撤退し平成 16 年(2004)3月に工場が閉鎖されました。

工場跡地は、大型マンション(1,497戸)、総合病院、スーパー等が建ち並ぶ新しい街「スマートシティ」の「ふなばし森のシティ」として平成 26 年(2014)7月開発されました。

この「ふなばし森のシティ」は、電線を地下に埋設し、太陽光発電の活用等住環境の美化

と省エネを実現し、平成 28 年(2016)10月フランス政府が国連で推進する「エコカルティエ(環境配慮型地区)認証」をフランス国外で船橋市が世界で初めて受賞しました。



「街並みの綺麗な・ふなばし森のシティ」